

<代表値>

男性：家庭 38.7%，職場や学校 72.1%

女性：家庭 50.9%，職場や学校 40.3%

<代表値のもととなる資料>

厚生省保健医療局（1999）では、1999（平成 11）年 2 月 17 日から 3 月 2 日までの 14 日間、喫煙の実態を把握するために喫煙歴、ニコチン依存の状況、受動喫煙などについての全国的な調査を行っており、「平成 10 年度 喫煙と健康問題に関する実態調査報告書」として公表している。調査客体は、平成 10 年国民生活基礎調査で設定された単位区から無作為抽出した全国の 300 単位区の 15 歳以上の全世帯員である。対象者数は 13,992 人、そのうち回収数は 12,858 人であった。調査票による調査で、受動喫煙が「時々あった」と「ほとんど毎日」とする人を、受動喫煙を受けているとした。男女別の割合は下表の通りである。

また、通常、受動喫煙とは、非喫煙者が自分の意思とは関係なく煙草の煙にさらされ、それを吸うことを意味するが、この調査では、喫煙者、非喫煙者に関わらず受動喫煙を受けた人を調査している。

男女別受動喫煙の割合（％）

	家庭	職場や学校	飲食店	遊戯場	その他
男性	38.7	72.1	58.9	29.9	35.1
女性	50.9	40.3	39.4	10.0	29.8

出典：厚生省保健医療局（1999）

受動喫煙の割合は、家庭において、男性 38.7%，女性 50.97%，職場や学校においては、男性 72.1%，女性 40.3%となり、これらの値を代表値とした。

<追加的情報>

早藤ら（2004）は、受動喫煙の実態を調査するために、2000（平成 12）年度および 2001（平成 13）年度に、東京都保健所が実施する小規模企業検診受診者のうち、調査に同意が得られた成人 363 人（男性 201 人、女性 162 人）を対象に、たばこに含まれるニコチンの代謝物であるコチニン濃度について、尿中および血清中コチニン濃度を測定している。アンケートで「喫煙習慣なし」と回答した非喫煙者は、血清中あるいは尿中コチニン濃度が喫煙者と同レベル以上の人を「強受動喫煙者群」、喫煙者より低い濃度の人を「弱受動喫煙者群」として、2 群に分けられている。この調査では、強受動喫煙者とは、血清中コチニン濃度 20ng/ml 以上または尿中コチニン濃度 80ng/mgCr 以上とされ、喫煙者は、いずれもこの値を超えている。非喫煙者 193 人（男性 80 人、女性 113 人）のうち、強受動喫煙者と判断される割合は、男性 50.0%，女性 39.8%，全体では 44.0%と報告されている。

<数値の代表性>

◇ 代表値の信頼性：中

一般的な判断基準に基づく信頼性は高いといえる。しかし、2003（平成 15）年に、受動喫煙防止対策が謳われている健康増進法第 25 条が施行されて、特に職場や学校での状況は大きく変わったと考えられ、現状

を反映したデータであるかという点で疑問があるため、信頼性は中程度とした。

◇ 代表性に関する情報

代表値のもととなる資料

厚生省保健医療局（1999）の「平成 10 年度喫煙と健康問題に関する実態調査報告書」では、全国を対象とした国民生活基礎調査で設定された地区から無作為に 300 単位区を抽出しており、調査人数は 12,858 人である。調査方法としては、調査員が各世帯を訪問して留め置き法による質問紙調査で行われている。

追加的情報

早藤ら（2004）の、受動喫煙の実態に関する調査では、東京都保健所が実施する小規模企業検診受診者のうち、調査に同意が得られた成人 363 人（男性 201 人、女性 162 人）の尿中および血清中コチニン濃度を測定している。

◇ 入手できた資料の数

上記の 2 資料のみであった。

<引用文献>

代表値

厚生省保健医療局（1999）、平成 10 年度 喫煙と健康問題に関する実態調査 報告書.

追加的情報

早藤知恵子，磯貝スエ子，渡邊泰男，窪山泉，丸山浩一，矢野一好，吉田靖子（2004），環境中たばこ煙の曝露指標としての血清及び尿中コチニン濃度からみた受動喫煙状況，東京都健康安全研究センター研究年報，第 55 号，235-239.

<更新履歴>

2007.3.30 / 新規にデータを公開しました